

平成 25 年度

# 事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

学校法人 志學館学園

# 目次

<b>I 建学の精神</b>	<b>P.1</b>
<b>II みおしえ</b>	<b>P.1</b>
<b>III 志學館学園の概要</b>	<b>P.2～9</b>
1. 各学校の基本理念等	P.2～3
(1) 志學館大学	P.2
(2) 鹿児島女子短期大学	P.2
(3) 志學館高等部・中等部	P.2～3
(4) 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園・なでしこ幼稚園・すみれ幼稚園	P.3
(5) なでしこ保育園	P.3
2. 志學館学園の沿革	P.3～4
3. 志學館学園の組織	P.5
4. 各学校等の所在地	P.5
5. 志學館学園の役員	P.6
6. 各学校の状況	P.7～9
(1) 平成 25 年度 入学定員・収容定員及び学生・生徒・園児数	P.7
(2) 平成 26 年度 入学定員・入学者数	P.8
(3) 平成 25 年度 教職員数	P.9
<b>IV 各学校の事業報告</b>	<b>P.10～23</b>
1. 学園本部	P.10～11
2. 志學館大学	P.11～13
3. 鹿児島女子短期大学	P.13～14
4. 志學館高等部・中等部	P.15
5. 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園	P.16～17
6. 鹿児島女子短期大学附属 なでしこ幼稚園	P.17～18
7. 鹿児島女子短期大学附属 すみれ幼稚園	P.18～19
8. なでしこ保育園	P.19～20
事業報告 用語解説	P.21～23
<b>V 財務の概要</b>	<b>P.24～</b>
1. 平成 25 年度決算の概要	P.24～25
2. 消費収支計算書（5 年推移）	P.26
3. 資金収支計算書（5 年推移）	P.27
4. 貸借対照表（5 年推移）	P.28
5. 文部科学省 定量的な経営判断指標に基づく経営状態（5 年推移）	P.29
6. 財務分析	P.30
学校法人会計用語解説	P.31
7. 監査報告書	P.32

## I 建学の精神

### 「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」

- 「時代に即応した」とは、情勢の変化に対応して、合理的で効果的、かつ弾力的な運用を図るべきことを意味する。
- 「堅実にして」とは、人間としての教養・徳をつけること、つまり人間としての豊かさ等を意味していると解釈する。
- 「有為な人間」とは、豊かな人間性の上に、健康な体、強い意志、創造力と企画力、集団への適応と貢献の能力、科学や情報に対する理解と技術、国際人としての教養等を身につけ、国家・社会の発展に寄与しうる人間、即ち「実用」と「教養」を実現できる総合力を身につけた人間をさすものである。

## II みおしえ

雪のごとく清らかに

月のごとく明らけく

花のごとく撫子の強くやさしく

創設者満田ユイは、「建学の精神」を具体的に実践する時の心構えとして親しみやすく理解するようにと、中国の詩人、白居易の詩を引用し、それになぞらえて「みおしえ」とした。根底に「人間愛」を含んだ上で、詩にある「雪、月、花」になぞらえて、雪は「清浄と貞節」を、月は「聡明な明るさと静寂」を、花は「大和撫子を現し、日本女性の美徳とやさしさと芯の強さを現すもの」として説明した。

しかし、1986年「建学の精神」の改訂を機に、今ではその女性的な文体表現にかかわらず「清く、明るく、強く、やさしく」というその内容が人間としての在り方、人の美しい生き方を表すものとして脈々と学園に継承されている。

現在「雪、月、花」は「建学の精神」を具体的に実践する時の心根を象徴するものとして、学園章・校章・学園旗及び校旗となっている。

### Ⅲ 志學館学園の概要

#### 1. 各学校の基本理念等

##### (1) 志學館大学

###### 【基本理念】

豊かな教養に裏付けられた実践力と学ぶことへの高い志を持つ人間の育成

###### 【使命】

広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって文化の創造と社会の充実発展に寄与するため、人間と社会に対する深い関心と識見を持ち、専門的知識・技能を身につけ、社会に貢献する幅広い職業人を育成する。

###### 【教育目的】

- 1 個性の伸張をはかり、自主的・創造的な人間を育成する。
- 2 豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけ、常に課題意識を持ち、学ぶことの喜びを知る人間の育成に努める。
- 3 実践・臨床に重きを置いた教育を行い、また、将来を見据えたキャリア教育を組織的段階的に行う。
- 4 国際理解の教育を推進し、国際人として活躍する素地を培う。
- 5 社会に開かれた大学として、地域社会の発展と生涯学習の促進に力を注ぎ、社会人の学習意欲に応える。

##### (2) 鹿児島女子短期大学

###### 【教育理念】

学園の伝統を継承しつつ、最新の知識と専門の学芸を教授研究し、創造力・実践力に富み、家庭に社会に個人の持つ可能性を具現できる高い教養と人間性豊かな女性を育成するとともに、国際的視野に立って社会の充実発展に寄与する人材の育成に努める。

###### 【教育方針】

- 1 豊かな情操と高い教養を培い、心身ともに健康で調和のとれた人間像を目指して自己啓発を促す。
- 2 現代生活に即した専門的知識と実践的スキルを習得させ、自ら課題に対応する能力と創造性の発揚に努める。
- 3 人間関係に適切に対応でき得る能力を養成し、その能力を円滑に機能させる社会性を培う。
- 4 自ら判断し行動する主体性を涵養し、家庭や職場の有為な人材の育成に努める。
- 5 国際理解の教養と態度を育成し、洗練された国際人となる素地を習得させる。

##### (3) 志學館高等部・中等部

###### 【教育理念】

清新な発想のもとに「たしかな学力、ゆたかな人間性、たくましい行動力」を身につけた心身ともに健やかな人間を育成する。

【教育方針】

男女共学の進学校として学力開発と人間性開発を推進し、個性の伸張を図るとともに高い教養、豊かな情操を養い、意欲と情熱をもった自己教育力のある人間を育成する。

(4) 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園・なでしこ幼稚園・すみれ幼稚園

【教育目標】

一人ひとりの幼児の個性を伸ばし、豊かな心情や主体性・創造性を育て、心身ともに健全な人間の生きる力の基礎を培う。

【めざす幼児の姿】

げんきであかるい子 なかよくあそぶ子 よくかんがえくふうする子

(5) なでしこ保育園

【保育方針】

- 1 一人一人を大切に丁寧な保育を行い、自立した生活習慣を身につけ、健康な体、豊かな情緒、素直な表現力をもてる子どもの育成に努める。
- 2 身近な環境や自然と触れ合う中で豊かな感性を育み、創造力をふくらませ、友達との関わりの中で秩序や協調性をもてる子どもの育成に努める。

【保育の目標】

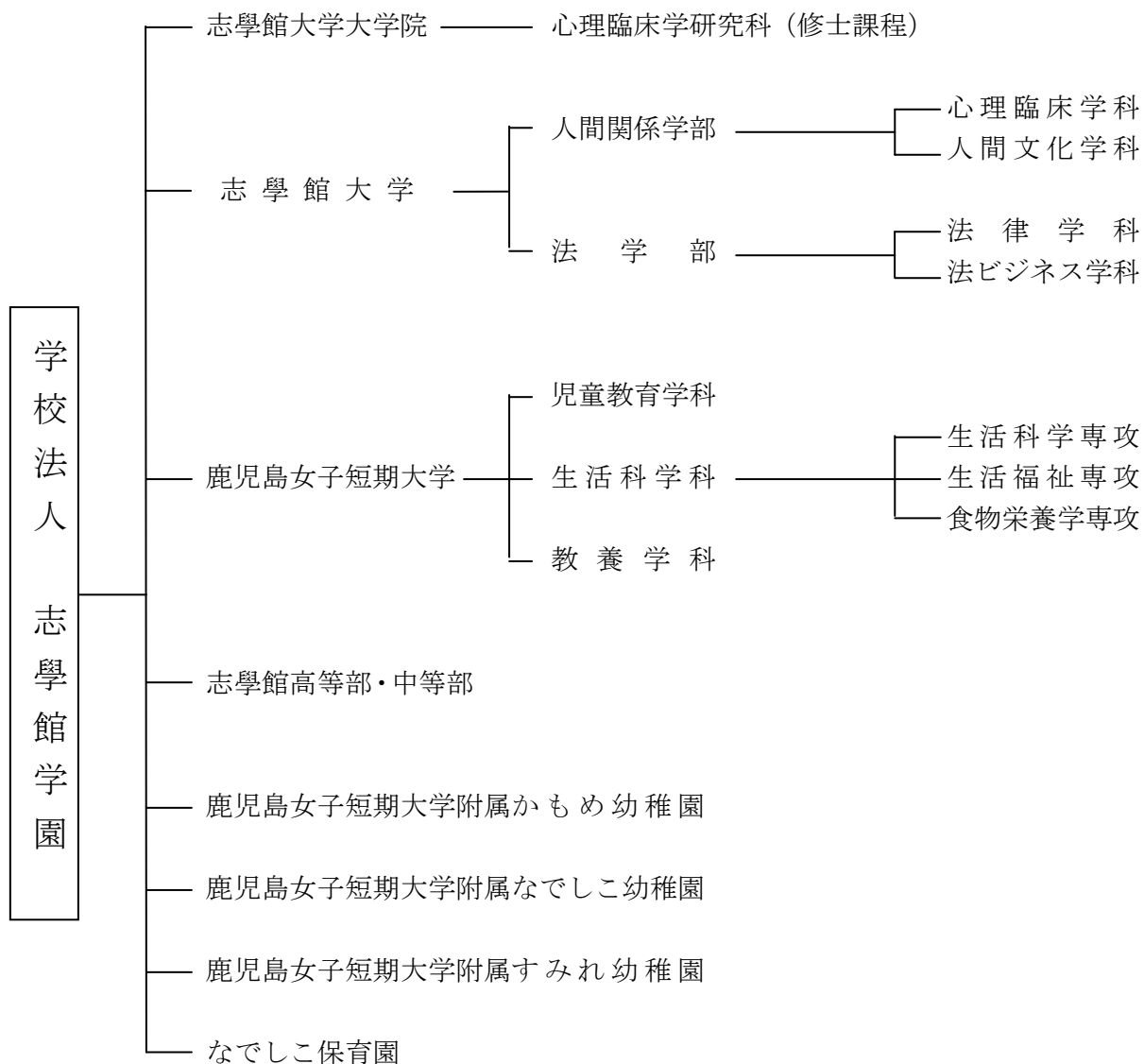
「一人一人を大切に感性豊かな子ども」の育成を目指す。

## 2. 志學館学園の沿革

明治40年	8月	鹿児島女子手藝伝習所開設
41年	2月	鹿児島女子技藝學校設置認可
大正15年	6月	鹿児島女子技藝學校の名称を鹿児島高等實踐女學校と改称認可
昭和23年	4月	学校教育法第1条に定める高等学校に昇格、鹿児島実践女子高等学校と改称
	4月	財団法人実践学園設立認可
26年	2月	財団法人の組織を変更し、私立学校法に定める学校法人実践学園設立認可
31年	4月	鹿児島実践女子高等学校全日制普通科開設
35年	4月	鹿児島実践学園幼稚園教員養成所開設（昭和41年3月31日廃止）
38年	5月	鹿児島実践女子高等学校附属かもめ幼稚園設置認可
40年	1月	鹿児島実践女子高等学校附属かもめ幼稚園を鹿児島女子短期大学附属かもめ幼稚園と改称認可
	4月	鹿児島女子短期大学開設（幼児教育科）
41年	4月	鹿児島女子短期大学家政科開設
42年	4月	鹿児島女子短期大学教養科開設

42年	12月	鹿児島女子短期大学家政科を食物栄養学専攻、家政専攻に専攻分離認可	
43年	4月	鹿児島女子短期大学幼児教育科を児童教育科に改称	
	4月	鹿児島実践女子高等学校に食物科設置	
46年	4月	鹿児島女子短期大学児童教育科を児童教育学科とし、その専攻を初等教育学専攻、幼児教育学専攻。家政科を家政学科とし、その専攻を家政学専攻、食物栄養学専攻。教養科を教養学科とし、それぞれ学科名、専攻名を名称変更	
49年	4月	鹿児島女子短期大学附属なでしこ幼稚園開設	
50年	4月	鹿児島女子短期大学家政学科の専攻を被服学専攻、家政学専攻、食物栄養学専攻に分離変更	
54年	4月	鹿児島女子大学文学部（国文学科・英文学科・人間関係学科）開設	
58年	4月	鹿児島実践女子高等学校の校名を鹿児島女子大学附属高等学校と改称	
61年	4月	鹿児島女子短期大学附属すみれ幼稚園開設	
62年	4月	志學館中等部開設	
63年	4月	鹿児島女子短期大学専攻科（児童教育専攻・家政専攻・食物栄養専攻・教養専攻）開設	
平成	1年	4月	鹿児島女子短期大学家政学科を生活科学科に名称変更
	2年	4月	志學館高等部開設
	4年	4月	鹿児島女子大学文学部英文学科を英語英文学科に改称
	7年	4月	鹿児島女子短期大学専攻科家政専攻を生活科学専攻に改称
11年	4月	4月	学校法人実践学園を学校法人志學館学園と改称
		4月	鹿児島女子大学を志學館大学と改称し、法学部法律学科を開設
		4月	鹿児島女子短期大学生活科学科に生活福祉専攻を開設
		4月	鹿児島女子大学附属高等学校を鹿児島学芸高等学校と改称
15年	4月	志學館大学文学部を募集停止し、人間関係学部心理臨床学科・人間文化学科を開設	
17年	4月	志學館大学大学院心理臨床学研究科（修士課程）設置	
18年	3月	鹿児島学芸高等学校廃止	
19年	4月	学校法人志學館学園 なでしこ保育園開設	
20年	4月	志學館大学法学部法ビジネス学科開設	
21年	4月	鹿児島女子短期大学を鹿児島市紫原から鹿児島市高麗町へ移転	
22年	4月	鹿児島女子短期大学児童教育学科の専攻を廃止し学科に統合	
23年	4月	志學館大学を霧島市隼人町から鹿児島市紫原へ移転	

### 3. 志學館学園の組織



### 4. 各学校等の所在地

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| ・志學館学園法人本部  | 鹿児島市高麗町5-27     |
| ・志學館大学      | 鹿児島市紫原1-59-1    |
| ・鹿児島女子短期大学  | 鹿児島市高麗町6-9      |
| ・志學館高等部・中等部 | 鹿児島市南郡元町32-1    |
| ・かもめ幼稚園     | 鹿児島市紫原1丁目19-20  |
| ・なでしこ幼稚園    | 鹿児島市明和2丁目41-1   |
| ・すみれ幼稚園     | 鹿児島市皇徳寺台4丁目44-1 |
| ・なでしこ保育園    | 鹿児島市明和2丁目41-1   |

5. 志學館学園の役員〔平成26年3月31日現在〕

\*理事 7人以上9人以内 現員8人

役員名	勤務	氏名	現職
理事長	常勤	志賀 壽子	志學館学園理事長及び学園長
理事	〃	清水 昭雄	志學館大学学長
〃	〃	阿部 哲郎	志學館学園本部事務局長
〃	〃	幾留 秀一	鹿児島女子短期大学学長
〃	非常勤	井手 三郎	学校法人聖マリア学院理事長
〃	〃	日高 旺	元鹿児島テレビ放送(株)代表取締役社長
〃	〃	永山 在紀	南国殖産(株)代表取締役社長
〃	常勤	志賀 啓一	志學館学園副理事長

\*監事 2人又は3人 現員2人

役員名	勤務	氏名	現職
監事	非常勤	海江田 順三郎	高島屋開発(株)相談役
〃	〃	大津 学	(株)大津倉庫代表取締役社長

\*評議員 17人以上19人以内(ただし、理事の2倍を超える人数)

現員 志賀 壽子 他16名



## 6. 各学校の状況

### (1) 平成25年度 入学定員・収容定員及び学生・生徒・園児数

平成25年5月1日現在

学校名	学部・学科・課程名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
志 學 館 大 学	大学院	人	人	人	人
	心理臨床学研究科	10	11	20	21
	人間関係学部				
	心理臨床学科	120	121	486	498
	人間文化学科	50	48	204	227
	学部計	170	169	690	725
	法学部				
	法 律 学 科	70	59	266	282
	法ビジネス学科	60	46	264	196
	学部計	130	105	530	478
	計	310	285	1,240	1,224
鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	児童教育学科	240	261	480	514
	生活科学学科				
	生活科学専攻	40	35	80	63
	生活福祉専攻	40	25	80	45
	食物栄養学専攻	100	94	200	198
	学科計	180	154	360	306
	教養学科	100	92	200	155
	計	520	507	1,040	975
志 學 館 高 等 部		160	98	480	332
志 學 館 中 等 部		120	85	360	282
か も め 幼 稚 園		—	—	260	194
な で し こ 幼 稚 園		—	—	240	105
す み れ 幼 稚 園		—	—	180	161
学 園 合 計		1,110	975	3,800	3,273

#### 【附帯事業】

な で し こ 保 育 園		—	—	40	45
---------------	--	---	---	----	----

## (2) 平成 26 年度 入学定員・入学者数

平成 26 年 4 月

学校名	学部・学科・課程名	入学定員	入学者数
志 學 館 大 学	大学院	人	人
	心理臨床学研究科	10	11
	人間関係学部		
	心理臨床学科	120	139
	人間文化学科	50	53
	学部計	170	192
	法学部		
	法 律 学 科	70	64
	法ビジネス学科	60	38
	学部計	130	102
	計	310	305
鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	児童教育学科	240	264
	生活科学科		
	生活科学専攻	30	25
	生活福祉専攻	30	22
	食物栄養学専攻	100	71
	学科計	160	118
	教養学科	100	92
	計	500	474
志 學 館 高 等 部		160	100
志 學 館 中 等 部		120	89

(3) 平成 25 年度 教職員数

平成 25 年 5 月 1 日現在

学校名	理事長	教育職員	事務職員等	合 計
志 學 館 大 学		54	33	87
鹿児島女子短期大学		54	29	83
志 學 館	高等部	23	6	29
	中等部	21	6	27
	小 計	44	12	56
かもめ幼稚園		13	2	15
なでしこ幼稚園		10	2	12
すみれ幼稚園		12	2	14
法 人 本 部	1	0	13	14
合 計	1	187	93	281
なでしこ保育園				13
合計 (含む保育園)				294

\* 上記は専任教職員数

## IV 各学校の事業報告

### 【事業計画の進捗状況】

達成度	A	B	C	D	E	その他	計
(達成率)	100～81%	80～61%	60～41%	40～21%	20～0%		
大学	16	23	7	1	1	1	49
短大	25	15	2	0	0	0	42
中・高	1	34	3	0	0	0	38
かもめ	6	2	0	0	0	0	8
なでしこ	7	1	0	0	0	2	10
すみれ	7	2	0	0	0	0	9
保育園	7	0	0	0	0	2	9
本部	7	7	0	0	0	0	14
計	76	84	12	1	1	5	179

### 1. 学園本部

#### 1. 事業計画の総評

平成 25 年度は「中期事業計画（2013-2015）」の計画初年度である。学園本部においては、事業計画項目を 14 項目に絞り込み、より高いレベルでの計画達成に向けて取り組んだ。

各事業項目の達成状況は、全事業項目において達成率が 60% を超えており、堅調な進捗状況であった。主要な事業項目については、「人材育成」、「経営・管理体制の強化」、「各設置校との連携強化」、「施設設備の充実」、「安定した財務基盤の確立」等において成果が上がっている。

平成 26 年度も、各事業項目の重要度、優先順位、進捗状況を考慮のうえ、引き続き計画の確実な推進を図る。

#### 2. 基本計画の進捗状況

##### (1) 「個人力」の強化

- ・「長期的・計画的な人材育成」においては、事務職員研修体系を見直し、新たに「人材育成プログラム」の策定に着手した。
- ・「管理職の人材育成力強化」を目的とした研修会を開催した。今後は人事考課訓練、計画的な OJT の実施にも取り組んでいく。

##### (2) 「組織力」の向上

- ・「経営・管理体制の強化」においては、PDCA サイクルに基づいた経営計画の進捗が図られるとともに、コンプライアンス活動、内部監査等が計画通り推進された。
- ・「業務改善の推進」については、業務共通化を目的とした人事異動改革に取り組み、初の 7 月定期異動を実施した。

- ・「募集力・広報力の強化」については、各設置校と連携した募集力・広報力の強化に取り組んだ結果、学園全体における在籍者数の増加を実現した。今後も継続して各設置校と連携した募集・広報活動の強化に取り組み、学生・生徒・園児数の増加を目指す。
- ・「教育環境（施設・設備等）の充実」については、営繕工事の計画的な実施に加え、教育備品や幼稚園バスのリニューアルが完了し、教育・研究環境の改善が図られた。
- ・「ICT環境の充実」については、図書館システムのリプレイス、短大、中・高等部のPC教室のリプレイスが完了した。また補助金制度を積極的に活用することにより、支出削減とICT環境の高度化を実現している。

### （3）「財務基盤」の確立

- ・平成 25 年度予算は確実に執行され、帰属収支差額比率は 10.8%を達成するなど、財務基盤の強化が図られた。
- ・補助金については、設置校間において、補助金制度等に関する情報共有及び収入増を目的とした取り組み活動等の連携強化に取り組んだことにより、採択件数及び補助金収入が増加した。
- ・寄付金募集や収益事業等における収入増への積極的な取り組みに加え、機器・設備のリニューアル等による経費削減の取り組みが推進された。

### （4）重点計画の推進

- ・「学園施設設備投資 4 か年計画」については、「大学体育館新築工事」、「大学・短大の耐震診断」等の事業に加え、「大学すみれ寮及び駐輪場用地」の購入手続き等も完了するなど、年度計画は確実に推進された。
- ・「認定こども園への移行」については、新制度に関する情報収集に継続的に取り組んだ。今後は、制度内容が確定次第、移行準備に取り組む予定である。

## 2. 志學館大学

### 1. 事業計画の総評

平成 25 年度の事業計画は、中期事業計画（2013－2015）の初年度であり、中計に掲げた各事業項目の具体策を策定していく内容のものが多く、事業項目 49 項目中 39 項目が達成率 60%を超えまずまずの結果であった。進捗が不芳な項目については事業項目自体の見直し、修正も含め平成 26 年度での進捗を図っていく。

### 2. 基本計画の進捗状況

#### （1）大学経営の強化

- ・学内・学外への広報強化のため、HP の「お知らせ」等によりタイムリーかつ細やかに情報を発信するとともに、英語版 HP を作成し国際化に対応した広報にも着手した。
- ・入学者数確保に向けては、オープンキャンパス、学内ガイダンスの実施回数を増やすと共に、保護者向けの DM 発送、奄美地区に募集専担者を配置するなど、

募集活動の強化を図った。併せて、AO入試の回数増や熊本試験場の増設等、入試制度の見直しも実施した結果、平成26年度は前年を20名上回る入学者の確保ができた。

- ・業務効率化については、入試システム導入により学納金徴収、教務事務の一部で効率化が図られたが、全般的には着手段階であり今後さらに加速させる必要がある。

## (2) 設置校間連携の強化

- ・学園設置校のステークホルダーに向けた心理相談センター、発達支援センターの機能活用については、センター側の受入れ体制は整った。設置校への利用案内と各設置校側での周知活動については、今後継続して行っていく必要がある。
- ・短大との協働による教員免許状更新講習や附属幼稚園における大学院生の実地研修などでは、設置校ならではの有意義な連携が図られ相応の効果が得られた。

## (3) ステークホルダーへのアプローチの充実

- ・同窓会の活性化については、30周年記念総会の開催を支援し一定の成果はあったが、更なる活性化に向け引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・後援会との連携強化については、宮崎、熊本、沖縄に加え、新たに奄美支部を設立し、遠隔地の保護者との連携強化を図った。

## (4) 教育・研究活動の一層の充実

- ・「志學館大学教育改革基本方針」に沿った更なる教育の「質的転換」を進めるために、「第二次教育改革基本方針」を取り纏めた。また、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた全学科の履修体系図を作成し、学生便覧に掲載すると共にHP上でも公表した。
- ・「eラーニング推進・教育活性化プロジェクト」を立ち上げ、eポートフォリオ、Moodleの連携・活用によるeラーニングの量的、質的推進に向けた体制を整えた。
- ・学生の基礎的教養力向上のための「FKテスト」のあり方、就業力育成に向けた「書く能力」の向上策については具体策の策定までには至らなかったが、引き続き検討を重ねていく。

## (5) 学生への支援の充実

- ・学生の教育とアメニティ改善に向け、体育館・武道場を新設するとともに、図書館内にアクティブラーニングに対応したラーニング・コモنزの施設設備の充実を図った。
- ・学生の進路支援として、公務員受験対策講座の充実、エントリーシートの作成指導、企業開拓、ジョブサポーターの配置増など、きめ細かな支援を実施した。

## (6) 国際交流の推進

- ・国際交流の充実および海外協定校との交流推進については、推進プログラムの検討、策定は行ったが実行には至らなかった。引き続き本学に合ったグローバル化について検討を重ねていく。

#### (7) 地域貢献事業の一層の推進

- ・新たに発足した「地域協働センター」により、学生のグループボランティア支援制度やボランティア公欠制度が創設され、学生が地域貢献活動を行いやすい環境が整えられた。事務職員も、プロジェクト型研修として「紫原地区との連携の可能性を探るプロジェクト」に地域協働センターとの協働により参加し、地域との連携強化に取り組んだ。
- ・地方公共団体との連携講座、地域住民向け共修講座、心理相談センター・発達支援センターの地域貢献活動、いずれも地域に認知され高い評価を得てきており、今後も一層の充実に取り組む

### 3. 鹿児島女子短期大学

#### 1. 事業計画の総評

平成 25 年度は、第 3 次中期事業計画の開始年度に当たり、教育の質保証等喫緊の課題に対応すべく各事業に精力的に取り組んだ。最終チェックの結果は、達成率で 8 割を越える A ランクは、過半数を超える 59.5%に達した。B ランクが 35.7%であり、両者合計で 95.2%と非常に高い達成率であった。これは、学習成果の可視化など、難易度の高い項目が多かったにもかかわらず、平成 26 年の第三者評価受審に向けて、皆が緊張感をもって計画の実施に取り組んだ結果である。

#### 2. 基本計画の進捗状況

##### (1) 教育内容の充実

- ・各科目につきカリキュラムマップを作成し、平成 26 年度入学生を主対象に配布したことにより、「科目の到達目標とディプロマポリシーとを関連づけて可視化する」という大きな課題を達成した。
- ・教育の質を保証する PDCA サイクルの確立を目的とした、非常勤講師との連絡会については、教育改革のための真摯な意見交換の場として非常に有益であった。
- ・FD・SD 活動を組織的に推進するため、授業評価アンケート項目・方法の再検討に取り組んだ。学生の自己評価システム構築計画との関連で、具体的な検討方法については次年度以降取り組むこととなった。

##### (2) 教育環境の整備・充実

- ・学生支援センターを西館 1 階に集約し、学生の利便性向上を図った。また地域連携センター、博物館展示室、南九州地域科学研究所を整備した。
- ・本館 3 階講義室の机・椅子の更新、図書館のスチール製雑誌架の木製本棚への更新など設備・備品の充実が一挙に進んだ。

##### (3) 地域貢献

- ・地域連携センター（COC 委員会）の体制作りに着手したことにより、地域貢献事業は、地域志向教育・研究の強化や公開講座の拡充を含め、広範な地域連携事業へと進展した。

- ・生涯学習委員会とCOC委員会とが連携し、次年度に高齢者の健康増進講座、子育て支援講座を試行的に開催することを決め、その検討を進めることができた。
- (4) 学生生活の充実
- ・学友会との懇話会等で、学生からの要望を聴取し、学生寮浴室の改善等が実現した。
  - ・図書館の施設・設備の現状を調査し、システムの更新、新聞架の更新、木製雑誌架への変更等の充実策を講じた。館内で利用できるノートパソコンの学生への貸出も開始されている。
- (5) 志學館大学および附属幼稚園との連携
- ・附属幼稚園及び保育園に対する教育相談を定期的実施した。また、運動会や発表会の際に、依頼に応じて学生がボランティアスタッフとして参加した。
  - ・養護教諭養成課程の大学への移行については、引き続き「基本問題会議」や「将来計画合同会議」等での情報交換を通じて検討していくこととなった。
- (6) 学生募集対策及び就職支援
- ・募集強化対策として、大学案内とは違う観点でDVDを新規制作した。また、沖縄県からの大学案内申請件数の増加や、1名ながら現地志願者があり、募集対策強化においても一定の成果が得られた。
  - ・就職支援については、キャリア相談室の一層の利用促進のため「学科別面談件数」について調査を実施し、キャリア・コンサルティングへの学生ニーズの把握に努めた。
  - ・卒業生就職先事業所への聞き取り調査のための外訪活動を強化し、行動目標管理手法を取り入れたが、システム対応でのデータベース化については次年度も引き続き検討していくこととした。
- (7) リスク管理とコンプライアンスの徹底
- ・リスク管理に関し、津波発生時における大学周辺の避難場所や避難経路等について、鹿児島市消防局等との情報交換・連携体制の整備を図った。
  - ・学内の様々な要因によるコンプライアンス違反の未然防止策を検討し、コンプライアンスの徹底を図った。
  - ・教員の研究活動状況の調査を実施し、教授会等で教員研究を促進した。
- (8) 『WE LOVE 鹿児島！プロジェクト』事業の継承
- ・当該事業の活性化の方法について、公開講座との連携、受講対象者の拡大、文化講演会の開催、地域との連携等の検討を行った。
  - ・平成25年8月の「大学改革フォーラム」で本GPのその後について成果報告を行い、改めて本事業継承の意義を確認できた。



## 4. 志學館高等部・中等部

### 1. 事業計画の総評

本年度も学園の「建学の精神」及び「ミッション（使命）」を基本として志學館中等部・高等部の「長期ビジョン」に則って「基本計画」を策定した。基本計画の4つの柱（1. 進学校としての教育活動の推進 2. 機能的な学校運営 3. 教育環境の充実と生徒・職員の健康・安全確保 4. 生徒数の安定確保）を重点項目として「事業計画」・「達成目標」に従ってそれぞれの担当グループのリーダーを中心に具体的行動に着手した。達成率60%以上の事業項目は、全体で約8割であり、堅調な進捗状況であった。

### 2. 基本計画の進捗状況

#### (1) 進学校としての教育活動の推進

- ・指導力向上を目的として、各教科職員を県外の教育機関や進学予備校に派遣し、研修等の受講を推進した。研修成果については、普段の授業や今後の進学指導等にフィードバックされている。
- ・サマースクールなど、補習についても見直しを行い、実態に対応した選択制などを試行的に実施した。

#### (2) 機能的な学校運営

- ・進学関連の情報収集及び情報共有等の取り組みについては、積極的に推進されている。
- ・教職員の県外研修を積極的に推進し、その内容等については、各教科会及び校内研修会等でフィードバックされ、全教職員で共有されている。
- ・校務分掌の効率化、コンプライアンスの研修会等の更なる充実についても、積極的に取り組んでいる。

#### (3) 教育環境の充実と生徒・職員の健康・安全確保

- ・教育環境の安全確保については、安全点検等を毎月確実に実施している。
- ・グラウンドトイレ改築工事の実施など、施設・設備の補修・更新が計画的に推進されている。
- ・PC教室のICT設備リプレイスを実施したことにより、ICT教育環境が大きく改善された。

#### (4) 生徒数の安定確保

- ・生徒募集活動としては、学校訪問・オープンスクール・学校説明会に加え、メディアへの広報活動などを随時実施した。
- ・沖縄県において学校説明会・入学希望者説明会を初めて開催し、3名の入学者があるなど、一定の成果が得られた。

## 5. 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園

### 1. 事業計画の総評

「園児一人一人の個性を伸ばし、豊かな心や生きる力育てる幼稚園」を長期ビジョンに掲げ保育活動の充実を目指してきた。

この目標達成のためには、組織の機能化と職員の意欲を高めることを経営の大きな課題と捉え、職員の意識や指導力の向上に努めてきた。

園庭の全面補修やリズム室の放送設備の整備等も完了し、教育環境の充実が図られており、より良い環境の中、園児たちの随所に成長した姿が見られるようになってきた。またバスキャッチシステムの導入により、園バスの円滑な運行が可能となった

創立 50 周年記念事業については、学園本部や幼稚園関係者の協力を得ながら、記念式典・祝賀会等の開催、記念誌の発行等の各事業を計画とおりに推進した。また、後援会の協力により、施設・設備等の充実を図ることもできた。

### 2. 基本計画の進捗状況

#### (1) 特色ある幼稚園としての存続・発展

- ・新カリキュラムに沿い、「目指す幼児の姿」を念頭に置き、「いきいき・にこにこのびのび」をキャッチフレーズに、共通実践事項を「挨拶・聞く態度・後片付け」として、園児一人ひとりの個性・発達に応じたきめ細かな指導を展開した。
- ・幼稚園評価の「学級における保育」の領域では、学期が進むれ評価が向上してきている。
- ・行事等については、目的・目標を設定し、改善を図りながら取り組んできた。行事を重ねるたび、子どもたちの心や体の成長が随所に見られるなど、充実した保育が展開されている
- ・「英語で遊ぼう」・「水泳教室」・「サッカークラブ」・「バレエ教室」等の課外活動の充実に取り組んだ。保護者のからも好評を得ており、満足度向上が図られている。
- ・短大とは主に教育実習及び教育相談の領域で連携を図っており、一定の成果が上がっている。
- ・園児募集対策については、未就園児クラブ（わんぱくキッズ）、一日体験入園、園庭開放等の取り組みに加え、HP の充実等の広報活動により、本園の特色をアピールしてきた。  
全員でチラシ等のポスティングに取り組むなど、園児募集に対する職員の意識も高い。

#### (2) 教職員の資質向上

- ・県内外の研修会に積極的に参加し、職員の力量を高めてきた。また、なでしこ・すみれ幼稚園の研究保育にも代表が参加し、研鑽を深めた。
- ・研究保育については、各担任が 1 回ずつ担当することを原則とし、今年度は 8 回実施した。研究の討議の在り方なども工夫し、効果的な運営に努めつつ各自の力量を高めた。
- ・業務改善については、全体で積極的に取り組んだことにより一定の効果が得られている。また、今年度より行事等に関する改善内容の保護者への公表にも取り組み、保護者からも好評を得ている。園全体でも、「労働時間管理表」を毎日提出す

るなどの取り組みにより、職員の労働時間管理への意識も高まってきている。今後も改善意識の浸透を図り、業務改善に取り組んでいく。

### (3) 教育環境の整備

- ・園庭の全面補修、リズム室の放送設備の更新、バスキャッチシステムの導入、テントや運動会備品の新規購入等の施設・設備の充実が図られた。
- ・安全管理については、毎月1回の安全点検の確実な実施に加え、外部委託による遊具安全点検も実施した。
- ・火災や地震、不審者等の非常事態に対する訓練を実施したことにより、園児・教職員の危機対処力も向上している。
- ・コンプライアンス研修会を定期的実施し、職員のコンプライアンスの意識の向上を図った。

### (4) 創立50周年記念事業

- ・本部と連携し、記念式典・祝賀会の開催、施設設備の整備、記念誌の発行等に積極的に取り組んだことにより、創立50周年記念事業は大きな成果を上げて、無事に完了した。

## 6. 鹿児島女子短期大学附属 なでしこ幼稚園

### 1. 事業計画の総評

「笑顔輝くなでしこ幼稚園」のキャッチフレーズを掲げ、保護者の信頼を高める幼稚園を目指し全職員の協調態勢のもと保育活動の充実をめざしてきた。

今年度も職員全員が元気に職務を遂行し、日々安定した保育を行うことができた。また、一層の保育の充実及び勤務時間の適性化を目指し、昨年引き続き行事に関係した準備物等を見直したり、スムーズな会議運営のために定刻開始・定刻終了等の意識付けを図ったりするなど、業務の精選に努めることができた。

新規の募集・広報活動を積極的に展開したことにより、多くの新入園児を確保できたことに加え、教職員のモチベーション向上も図られるなど、大きな成果を得ることができた。今後も、本年度の取り組みに加え、新たな活動を設定すると共に、募集・広報活動等の更なる充実を図り、入園児の増加に取り組む。

### 2. 基本計画の進捗状況

#### (1) 特色ある幼稚園としての存続・発展

- ・「教育課程」に基づいて作成された「週案」による保育が各クラスで計画的に実施された。
- ・「なでしこの森」を中核とした活動や近隣の施設を活用した園外保育等、自然に触れる体験活動も計画的に実施できた。
- ・園児募集に向け、広報活動の充実や見学者等への対応方法を改善した。
- ・HPについては、情報発信を積極的に実施し、更新回数も大幅に増加するなど、内容・運営体制ともに充実が図られた。
- ・幼稚園見学については、見学者の名前を記載したウェルカムボードを設置するな

どの取り組みを実施し、安心や親しみを感じられるように改善を図った。

- ・未就園児クラブ（にこにこクラブ）については、会費の見直しや内容の充実等に取り組んだことにより、会員数が大幅に増加した。今後も、会員数の増加を図るとともに、園児募集に繋がるよう積極的に取り組む。

## （2）教職員の資質向上

- ・園内研修では、全担任が保育指導案を作成し、研究保育を実施した。
- ・外部研修については、多くの職員を県外の研修会に派遣し、その成果を保育に生かすことができた。
- ・コンプライアンス研修会や学校評価の実施等により、業務改善意識も高まってきている。今後も、継続的に取り組み、教職員の資質向上を図っていく。
- ・「労働時間管理表」等により、勤務時間の適正化を図ることができた。

## （3）教育環境の充実

- ・施設・設備の整備・補修については、計画通りに実施され、教育環境の改善が図られた。
- ・避難訓練等の安全確保に関する取り組みについては、関係機関と連携し計画的に実施できた。
- ・勤務時間の適正化に向け、各種資料を活用し職員の意識を高める事ができた。

# 7. 鹿児島女子短期大学附属 すみれ幼稚園

## 1. 事業計画の総評

「喜んで登園、満足して降園」を目標に、常に園児を第一義とし、一人ひとりを大切にする保育の充実に向け、協働体制で事業を推進してきた。

経験年数の浅い教員が多いが、主任を中心に保育実践及び研修に励み、ほぼ順調な運営ができた。4年目を迎えた2歳児クラスは、1クラス増設され、運営体制も充実している。

運動場の拡張工事をはじめ、保育室内の改修工事等も計画とおり推進され、園児が楽しく活動するのにふさわしい環境が整いつつある。

HPや広報等募集活動に一層努力するとともに、さらなる保育の充実に関心、信頼される幼稚園づくりに取り組んでいく。

## 2. 基本計画の進捗状況

### （1）特色ある幼稚園としての存続・発展

- ・業務改善を考慮しつつ、特に若手の担任は教育活動の充実のため、保育計画の立案の仕方から準備・保育の実践・評価のサイクルを学びながら、工夫した展開がなされた。
- ・送迎バスの運行管理システムの導入効果により、保護者へのサービス向上、事務の効率化に成果が上がった。
- ・緑のカーテン事業やイネ・イチゴ・ミニトマト・ナス・オクラ等の栽培、蝶やアイガモ・ジュウシマツなどの飼育、その他様々な園外活動等をとおして、体験的

活動の充実を図ってきた。

- ・短大との連携については、教授の保護者向け講話、教育相談事業、運動会での学生の援助等が実施された。さらに学生との連携を深める方策を検討していきたい。
- ・日々の保育の充実を図るとともに、未就園児クラブ（さくらんぼクラブ）の充実、HP等を利用した広報活動を展開するなど、園児募集活動に積極的に取り組んだ。

## （2）教職員の資質向上

- ・3園の夏季研修会や県内外の各種研究会等に積極的に参加し、教職員の資質向上に努めた。
- ・経験年数の浅いクラス担任への対応については、主任や先輩教員がリードしながら、日々の保育内容や業務内容に対して助言や指導を実施するなど、安心して仕事に取り組める支援体制を整えた。

## （3）教育環境の充実

- ・営繕工事が計画どおり推進され、園児がより快適に安心して遊べる環境が整備された。
- ・イネ・ミニトマトなどの野菜・ジュウシマツ、アイガモ、ツマグロヒョウモンなど、生き物等中心とした自然体験のできる環境や、花の栽培など美的環境整備に取り組んだ。
- ・補助教諭2名、子育て支援担当2名、特別支援教育支援担当4名が配置され、教育体制の充実も図られた。

# 8. なでしこ保育園

## 1. 事業計画の総評

保育理念「乳幼児の可能性をのばし豊かな心情や創造性を育て心身共に健全で有為な人格の発達を助長する。」を目指し、全職員の協調態勢のもと、工夫・改善しながら保育内容の充実に取り組むとともに、保護者に安心・信頼される園づくりに努めてきた。また、保育実践の振り返りや自己評価の実施、外部研修への参加による職員の資質向上にも取り組んだ。

## 2. 基本計画の進捗状況

### （1）特色ある保育園としての存続・発展

- ・「保育所保育指針」に基づいた保育課程、年間保育計画及び月間保育計画を策定のうへ、計画的な保育活動に取り組んだ。
- ・なでしこ幼稚園との交流保育、幼稚園バスを利用した園外保育、「なでしこの森」を中核とした自然に触れる体験活動を計画的に実施した。
- ・栄養士と連携し、食育を目的とした、野菜の栽培やクッキング等の体験活動を計画的に実施した。
- ・HP等を活用した積極的な広報活動を展開したことにより、保育園の認知度の向上が図られた。

(2) 教育環境の充実

- ・ 保育室内の備品や乳児用の遊具等の整備を計画的に推進し、保育環境の充実を図った。
- ・ 保育所内外の定期的な安全点検を実施し、安全管理に対する共通理解や体制づくりに取り組んだ。

(3) 職員の資質向上

- ・ 研修会や保育学習会へ積極的に参加し、保育の専門性を高めるよう取り組んだ。
- ・ 保育の様子を撮影し、保育内容の検証や保育技術の向上に活かすなどの新たな取り組みを開始した
- ・ 職員同士の信頼関係を深めると共に、業務効率化を推進し、快適で働きやすい職場環境づくりに努めた。

## 用語解説

### 【大学】

#### ■eラーニング

ICT技術を用いて行う学習（学び）のこと。

#### ■eポートフォリオ

個人のプロフィールや学習成果などを保存・整理し、共有することができる、総合データベースシステムのこと。学生の学習記録や、自発的な情報発信を共有・活用し、質の高い教育とキャリア支援を実現が可能となる。

#### ■LMS

eラーニングの実施に必要な、学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムのこと。

#### ■モバイルラーニング

eラーニングの一種で、携帯電話などのモバイル機器を活用し、いつでもどこでも知識習得が可能な学習システムのこと。

#### ■アクティブラーニング

教員が一方向的に講義を行うという授業スタイルではなく、あくまでも学生が確実に知識を学びとるための方法に主眼を置いた授業形態のこと。

#### ■ラーニング・コモンズ

「コモンズ」は「共有のスペース」を意味する。ラーニング・コモンズとは、学生がともに学ぶ共有のスペースのこと。（図書館等）

#### ■ステークホルダー

ステークホルダーとは組織の利害関係者をいうが、学校法人の場合は、学生・生徒・園児、保護者、教職員等、学校法人とかかわりのある全ての人を指す。

#### ■アメニティ（短大にも記載）

快適もしくは適度な「環境」（自然環境・社会環境）・設備のこと。

#### ■エクステンション・センター

エクステンション（*extension*）という英単語には、“拡張”という意味から派生して“公開講座”や“学外教育”という意味がある。エクステンション・センターは、大学における教育と研究の“拡張”として、学生のみならず一般市民に対して“公開講座”や“資格試験対策講座”等を提供する施設をいう。

#### ■アドミッションポリシー

アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）は、各大学・学部が、その教育理念

や特色を踏まえ、どのような教育活動を行い、またどのような能力や適性等を有する学生を求めているかなどの考えをまとめたものであり、入学者の選別方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。

## ■NPO

「Nonprofit Organization」または「Not-for-Profit Organization」の略で、広義では非営利団体のこと。狭義では、非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。

## 【短大】

### ■FD・SD

FD（ファカルティ・ディベロプメント）は、「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」のことであり、大学の授業改革のための組織的な取組みを指す。

SD（スタッフディベロプメント）は、職員の資質向上・能力開発のための組織的な取組みのことである。

### ■「We Love 鹿児島！」

平成17年度～20年度に短大で実施された現代GP事業。

### ■現代GP

「GP」とは、大学教育改革の“優れた取組み”という意味で国際的にも広く使われている「Good Practice」の略称。GP事業とは、各大学が自らの大学教育に工夫を凝らした優れた取組みで他の大学でも参考となるようなものを公募により選定する文部科学省の事業の通称。「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）等がある。なお、平成20年度からは、特色GP及び現代GPを統合した「質の高い大学教育推進プログラム」として実施されている。

### ■インターンシップ

学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度。

## 【中・高】

### ■学力開発

進学校として何よりも学力の向上と定着を図り、自ら勉強する意欲と情熱をもった人間を育成することを目的とした取組みのこと。

### ■人間性開発(SDP=Self Development Program)

中・高等部において、「豊かな感性と強い意志力をもち自主的・主体的に行動する人間」の育成を目指し、SDPの時間をはじめ適宜クラス単位、学年単位、あるいは全校単位での取組みのこと。



■学校力

中高等部のブランドイメージ、また地域社会からの認知度のこと。

【幼稚園】

■未就園児クラブ

未就園児の子どもを対象とした、保護者や同年代の子どもと幼稚園の雰囲気に触れてもらうことを目的とした取り組み。また園児募集活動の一環でもある。

## V 財務の概要

### 1. 平成 25 年度決算の概要

消費収支計算書は、当該年度の消費収入と消費支出の内容及び収支の均衡を明らかにし、学園の経営状況の健全性を示すものであり、企業会計における損益計算書に類似したものである。

資金収支計算書は当該年度 1 年間の資金の収入・支出のてん末を明らかにしたものである。

#### 【消費収支計算書】

当期の概況について、前年度と対比し主な増減について説明すると、消費収入の部における帰属収入は、3,633,198 千円で、平成 24 年度より 102,440 千円増加した。

主な要因は、学生生徒納付金収入増等によるものであった。

消費支出の部合計は 3,241,338 千円で、平成 24 年度より 138,455 千円の増加であった。

主な要因は、教育研究経費の支出増等によるものであった。

収入及び支出の対前年度比較については、次のとおりである。

#### (収入)

学生生徒等納付金は、学生生徒園児数が対前年度比で 99 人増加し 3,273 人となったことにより、47,291 千円の収入増となった。補助金は、教育研究活性化設備整備事業補助金（大学）等の競争的補助金における採択件数の増加に伴う補助金の増額や、私立大学等改革総合支援事業の選定に伴う経常費補助金の増額加算等により、27,662 千円の収入増であった。雑収入は、退職者数の増加に伴い、退職財団・社団からの交付金等で 36,298 千円の収入増となった。

#### (支出)

教育研究経費は、中等部のスクールバスを無料にし、管理経費から教育研究経費へ移行したことによる支出増、大型設備投資に伴う減価償却費の支出増、より一層教育の充実に寄与するために有効な投資等により、90,014 千円の支出増であった。管理経費は、補助活動事業支出の減少等により 2,732 千円の支出減となった。

平成 25 年度の帰属収支差額は 391,860 千円となり、36,015 千円の減益となった。主な要因は、期中退職者増に伴う退職金の増加によるものである。

#### (帰属収支差額)

帰属収支差額 391,860 千円は、長期経営計画(2010 - 2015)の平成 25 年度予想額 335,000 千円を 56,860 千円上回った。

#### 【資金収支計算書】

#### (収入)

学生生徒等納付金収入 2,500,208 千円、補助金収入 809,643 千円、資産売却収入 112,041 千円、事業収入 123,861 千円、前受金収入 459,760 千円等により、収入の部合計は 5,078,552 千円（対前年度+457,311 千円）であった。

(支出)

人件費支出 2,073,673 千円、教育研究経費支出 572,129 千円、管理経費支出 206,192 千円、借入金等返済支出 213,400 千円、施設関係支出 822,814 千円、設備関係支出 190,504 千円 等により、支出合計額は 4,325,737 千円であった。

平成 25 年度は、学園施設設備 4 か年計画に沿った体育館建設（大学）など施設設備充実のための大規模投資額 772,550 千円を自己資金で実行し、次年度繰越支払資金は 752 百万円（対前年度比△495,324 千円）となった。

#### 【貸借対照表】

流動資産の現金預金は、前年度より 495 百万円減少した。これは、有形固定資産が合計で前年度より 633 百万円増加しており、大規模な施設設備投資を自己資金で実行したことに因るものである。

基本金の組入は、第 1 号基本金が 1,179 百万円、第 2 号基本金が 140 百万円増加し、合計 1,319 百万円の組入増となった。

資産総額は前年度と比べ 324,258 千円増加し、負債総額は 67,601 千円減少した。

平成 24 年度末の借入金残高は 1,183,120 千円であったが、順調に 213,400 千円を返済し、本年度末の借入金残高は 969,720 千円となった。

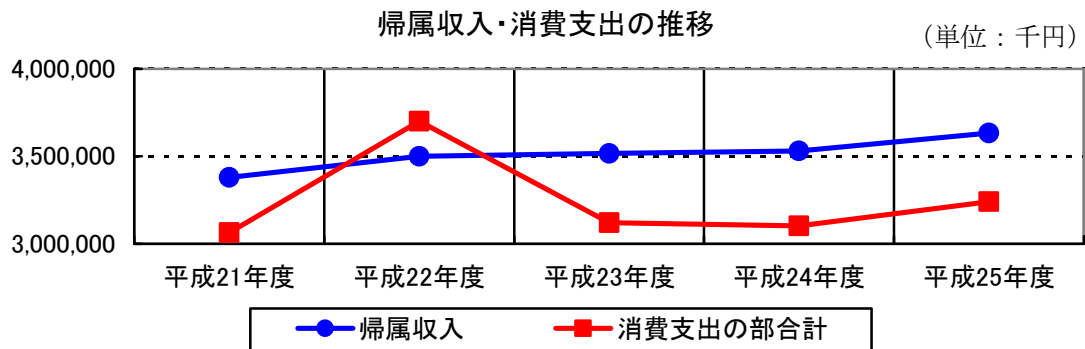
この結果、自己資金構成比率（(総資産－総負債) / 総資産）は、昨年度 83.0%から 83.7%に向上した。

## 2. 消費収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
学生生徒等納付金	2,291,410	2,384,725	2,481,220	2,452,918	2,500,209
手数料	39,404	38,747	36,994	37,866	36,079
寄付金	9,137	9,386	9,630	14,403	16,228
補助金	754,170	799,793	743,506	781,982	809,643
資産運用収入	12,766	6,316	12,111	14,737	7,836
資産売却差額	63,767	8,490	5,421	25,406	15,438
事業収入	81,789	106,196	104,984	115,841	123,861
雑収入	127,221	147,169	122,878	87,605	123,904
帰属収入	3,379,664	3,500,822	3,516,744	3,530,758	3,633,198
基本金組入額合計	△ 172,231	△ 49,228	△ 231,285	△ 342,755	△ 1,336,206
消費収入の部合計	3,207,433	3,451,594	3,285,459	3,188,003	2,296,992
科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人件費	2,021,430	2,600,431	1,989,681	2,010,775	2,075,286
教育研究経費	751,336	761,812	736,536	737,487	827,500
管理経費	227,925	274,740	301,682	324,396	321,663
借入金等利息	28,974	32,748	21,916	17,888	13,560
資産処分差額	13,898	24,279	58,886	0	0
徴収不能額(引当含)	19,540	6,139	11,576	12,337	3,329
消費支出の部合計	3,063,103	3,700,149	3,120,277	3,102,883	3,241,338
当年度消費収入超過額	144,330	△ 248,555	165,182	85,120	△ 944,346
前年度繰越消費支出超過額	4,549,871	4,134,253	1,500,621	1,171,656	1,014,745
基本金取崩額	271,288	2,882,187	163,783	71,791	16,601
翌年度繰越消費支出超過額	4,134,253	1,500,621	1,171,656	1,014,745	1,942,490
帰属収支差額	316,561	△ 199,327	396,467	427,875	391,860
帰属収支差額(特損等除)	266,692	△ 183,538	449,932	402,469	376,422

注) 22年度帰属収支差額マイナスは、退職給与引当計上割合100%組入582,635千円が主な要因である。



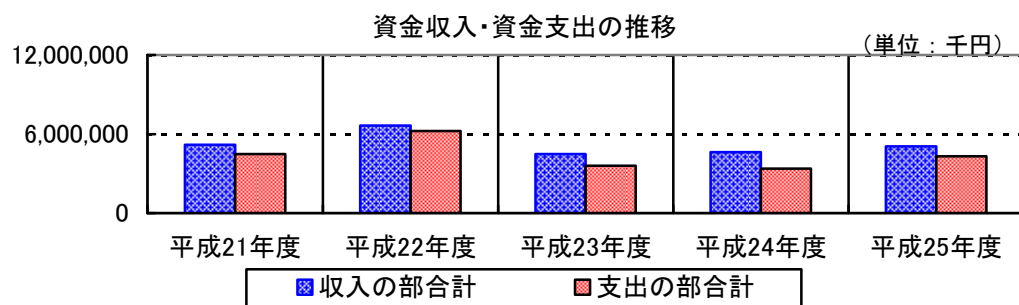
### 3. 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
学生生徒等納付金収入	2,291,410	2,384,725	2,481,220	2,452,918	2,500,209
手数料収入	39,404	38,747	36,994	37,866	36,079
寄付金収入	4,698	3,497	3,513	5,526	11,738
補助金収入	754,170	799,793	743,506	781,982	809,643
資産運用収入	12,766	6,316	12,111	14,737	7,836
資産売却収入	1,646,254	1,445,105	449,868	224,085	112,042
事業収入	81,789	106,196	104,984	115,841	123,861
雑収入	126,987	147,169	122,877	87,605	123,904
借入金等収入	8,000	800,000	100,000	0	0
前受金収入	491,574	528,394	466,642	467,635	459,760
その他の収入	144,622	260,415	230,850	165,284	302,927
資金収入調整勘定	△ 643,508	△ 726,788	△ 690,429	△ 619,891	△ 657,586
前年度繰越支払資金	382,934	853,203	424,455	887,653	1,248,139
収入の部合計	5,341,100	6,646,772	4,486,591	4,621,241	5,078,552

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
人件費支出	2,054,346	2,084,262	2,046,155	2,010,609	2,073,673
教育研究経費支出	469,694	505,456	502,280	499,578	572,130
管理経費支出	173,539	221,524	196,810	219,295	206,193
借入金等利息支出	28,974	32,748	21,917	17,888	13,560
借入金等返済支出	542,290	664,500	329,960	213,400	213,400
施設関係支出	79,385	1,053,111	23,044	141,233	822,814
設備関係支出	59,066	157,524	65,693	132,971	190,504
資産運用支出	1,141,404	1,545,307	403,838	224,730	384,999
その他の支出	141,170	186,130	220,758	204,473	172,258
資金支出調整勘定	△ 201,971	△ 228,245	△ 211,517	△ 291,075	△ 323,794
次年度繰越支払資金	853,203	424,455	887,653	1,248,139	752,815
支出の部合計	5,341,100	6,646,772	4,486,591	4,621,241	5,078,552

注) 平成 22 年度は、大学移転に伴う借入金増及び施設設備関係支出増を含む。



#### 4. 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
固定資産	15,363,638	16,245,163	15,897,093	15,857,084	16,644,675
有形固定資産	15,163,499	16,032,925	15,678,352	15,608,717	16,242,545
その他の固定資産	200,139	212,238	218,741	248,367	402,130
流動資産	1,055,521	715,975	1,097,798	1,444,631	981,299
資産の部合計	16,419,159	16,961,138	16,994,891	17,301,715	17,625,974

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
固定負債	1,753,383	2,397,138	2,128,479	2,040,827	1,847,333
流動負債	919,103	1,016,654	922,600	889,201	1,015,093
負債の部合計	2,672,486	3,413,792	3,051,079	2,930,028	2,862,426

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
第1号基本金	17,550,153	14,717,162	14,784,589	15,055,554	16,235,159
第2号基本金	0	0	0	0	140,000
第3号基本金	49,729	49,761	49,835	49,835	49,835
第4号基本金	281,044	281,044	281,044	281,044	281,044
基本金の部合計	17,880,926	15,047,967	15,115,468	15,386,433	16,706,038

科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
翌年度繰越消費支出超過額	4,134,253	1,500,621	1,171,656	1,014,745	1,942,490
消費収支差額の部合計	△ 4,134,253	△ 1,500,621	△ 1,171,656	△ 1,014,745	△ 1,942,490

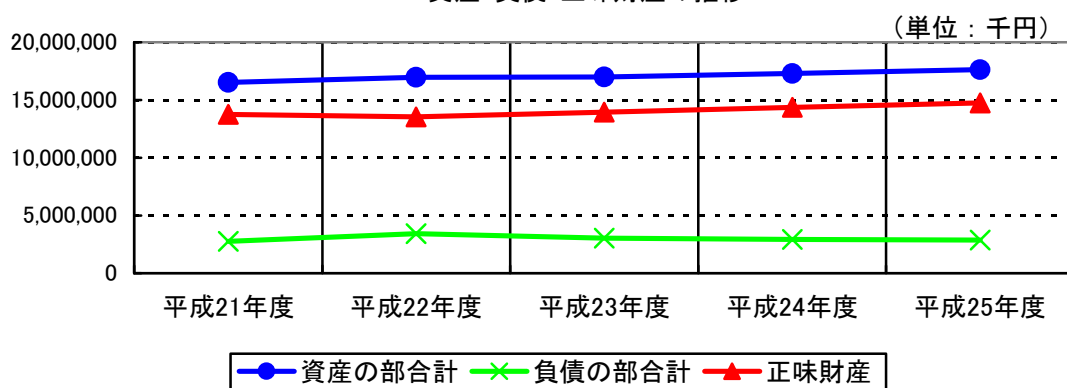
科 目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
負債, 基本金, 消費収支差額の部合計	16,419,159	16,961,138	16,994,891	17,301,716	17,625,974

#### 【参考】

正味財産	13,746,673	13,547,346	13,943,812	14,371,687	14,763,548
------	------------	------------	------------	------------	------------

注) 平成22年度の第1号基本金の減少は、大学霧島キャンパスの固定資産を基本財産から運用財産へ移管したことによる基本金取崩のため。

資産・負債・正味財産の推移



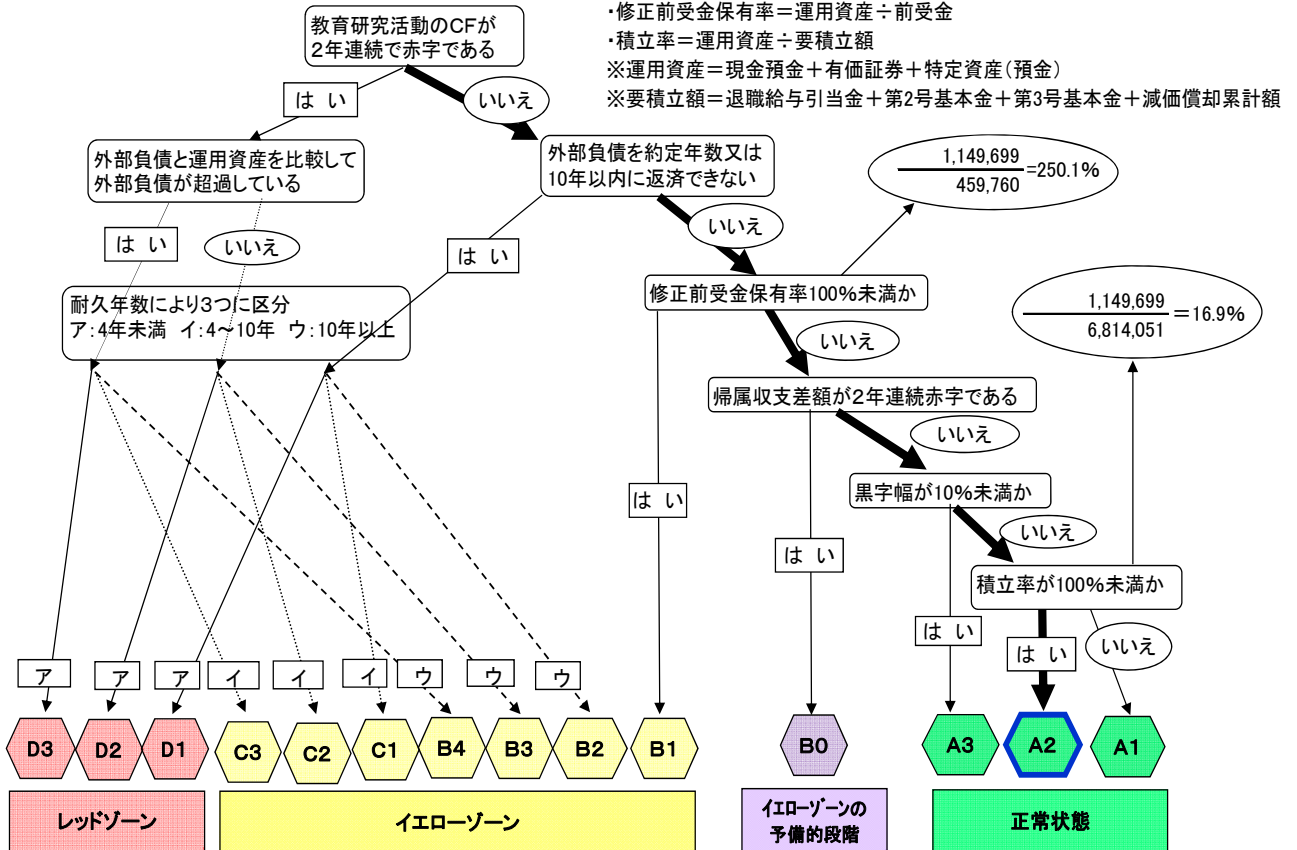
5 文部科学省 定量的な経営判断指標に基づく経営状態

志學館学園 経営判断指標判定表

判定	A2	A2	A1	A2	A2	
(単位:千円)						
I 教育研究活動によるキャッシュフロー	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	収入(A)	3,319,236	3,521,981	3,443,218	3,497,469	3,605,395
	支出(B)	2,726,553	2,843,990	2,767,162	2,747,370	2,865,557
	C=A-B	592,683	677,991	676,056	750,099	739,838
	C/A	17.9%	19.3%	19.6%	21.4%	20.5%
判定	○	○	○	○	○	
II 運用資産と外部負債の関係	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	運用資産(D)	1,079,660	659,671	1,129,928	1,510,921	1,149,699
	外部負債(E)	1,684,064	1,867,839	1,626,127	1,499,296	1,444,249
	F=D-E	△ 604,404	△ 1,208,168	△ 496,199	11,625	△ 294,550
	C<0且つF>0の時 F÷C(単位:年)				運用資産が上回っているため、年数は記載しない。	
C>0且つF<0の時 F÷C(単位:年)	1.0	1.8	0.7		0.4	
III 帰属収支差額 (資産売却差額及び資産処分差額を除く)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	帰属収入(G)	3,315,897	3,492,332	3,511,322	3,505,352	3,617,760
	消費支出(H)	3,049,204	3,675,870	3,061,392	3,102,883	3,241,338
	I=G-H	266,693	△ 183,538	449,930	402,469	376,422
	I/G	8.0%	△ 5.3%	12.8%	11.5%	10.4%
判定	○	×	○	○	○	

注1) 平成22年度帰属収支差額比率△5.3%は、退職給与引当金計上基準の変更による100%組入の582,635千円を一括実施したことによる。100%組入を行わなかった場合は11.0%である。

注2) 文部科学省の定量的な経営判断指標は平成24年度に精緻化され、7区分から14区分へ変更になった。



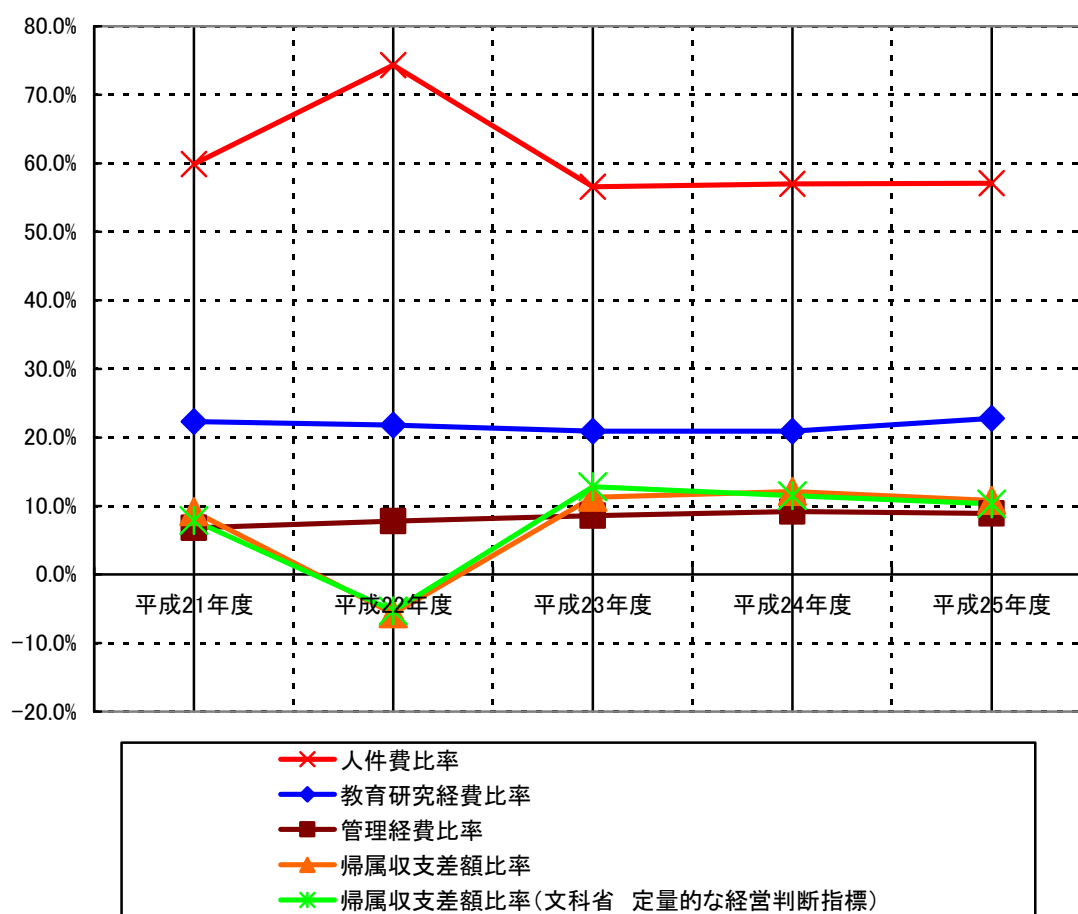
## 6 財務分析

	分析項目	21度	22度	23度	24度	25度	大学法人 全国平均	
1	人件費比率	59.8%	注②74.3%	56.6%	57.0%	57.1%	52.8%	▼
2	教育研究経費比率	22.2%	21.8%	20.9%	20.9%	22.8%	31.2%	△
3	管理経費比率	6.7%	7.8%	8.6%	9.2%	8.9%	9.2%	▼
4	帰属収支差額比率	9.4%	△5.7%	11.3%	12.1%	10.8%	4.8%	△
5	文部科学省 定量的な 経営判断指標 帰属収支差額比率 (資産売却, 資産処分差額除く)	8.0% A2	△5.3% A2	12.8% A1	11.5% A2	10.4% A2	-	

注①) 全国平均出典：平成25年度版日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より。(24年度のData)  
△・・・高い値が良い ▼・・・低い値が良い

注②) 平成22年度人件費比率74.3%は退職給与引当金計上基準100%組入一括実施のため。  
退職給与引当金組入100%を行わない場合は57.6%である。

注③) 文部科学省の定量的な経営判断指標は平成24年度に精緻化され、7区分から14区分へ変更になった。





## 【学校法人会計用語解説】

### ○帰属収入

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金等の当該年度の学園の負債とならない収入を言います。したがって、借入金や前受金（次年度入学者の学納金を前年度の3/31までに収受すること）などの負債性のある資金は除きます。

### ○消費支出

人件費、教育研究経費、管理経費、借入金利息等の当該年度に発生した費用です。資金支出の他に退職給与引当金繰入額や減価償却額が含まれます。

### ○基本金

学校法人が教育研究活動を行うには、校地、校舎、機器備品、図書、現金預金等の資産をもち、これを永続的に維持する必要があります。学校会計では、当該年度にこれらの資産の取得に充てた金額を基本金へ組入れる仕組みとなっています。

- ・第1号基本金・・・校地、校舎、機器備品、図書等の固定資産の取得価額
- ・第2号基本金・・・将来の新規投資に充てるため積み立てた資産に見合う額を計画的に組入れること
- ・第3号基本金・・・奨学基金の資産の額
- ・第4号基本金・・・運営に必要な運転資金の額（文部科学大臣の定める額）

### ○帰属収支差額（企業会計における当期利益にほぼ相当）

帰属収入から消費支出を差し引いた額のことです。この金額がプラスに大きくなるほど自己資金が充実されていることとなり、マイナスが大きくなるほど経営は窮迫し、いずれは資金繰りに困難をきたすこととなります。現在は、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団とも帰属収支差額を利益の判断基準にしています。

### ○貸借対照表

一定時点（3月31日・決算日）における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及びあり高を明示し、学校法人財産状況を明らかにするものです。

### ○財産目録

貸借対照表の資産や負債について、科目ごとに具体的内容を表し、学校法人が所有する土地や建物の面積などを明らかにしたものです。法務局への登記が義務付けられています。

# 監 査 報 告 書

平成26年5月21日

学校法人志學館学園  
理 事 会 御中

学校法人 志學館学園

監 事 海江田順三郎 

監 事 大 津 学 

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行うため、学校法人志學館学園の寄附行為第15条の規定に従い、学校法人志學館学園の平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上